

職業実践専門課程の基本情報について

|                  |   |                           |              |                       |   |      |     |
|------------------|---|---------------------------|--------------|-----------------------|---|------|-----|
| 学校名              |   | 設置認可年月日                   | 校長名          |                       | 所在地   |      |     |
| 東京メディカル・スポーツ専門学校 |   | 平成20年8月1日                 | 関口 正雄        |                       | 〒134-0088<br>東京都江戸川区西葛西3-1-16<br>(電話) 03-5605-2930  |      |     |
| 設置者名             |   | 設立認可年月日                   | 代表者名         |                       | 所在地   |      |     |
| 学校法人 滋慶学園        |   | 昭和58年12月23日               | 浮舟 邦彦        |                       | 〒134-0084<br>東京都江戸川区東葛西6-16-2<br>(電話) 03-5878-3311  |      |     |
| 分野               | 認定課程名   | 認定学科名                     |              | 専門士                   | 高度専門士   |      |     |
| 医療               | 医療専門課程  | 理学療法士科Ⅱ部                  |              | 平成22年文部科学省<br>告示第153号 | —   |      |     |
| 学科の目的            | 医療人としてのマインド、理学療法士の知識、技術を持ち、常に発展、成長し続けることができる。また、健康・スポーツをキーワードとし地域社会に貢献できる理学療法士を養成する。  |                           |              |                       |   |      |     |
| 認定年月日            | 平成26年3月31日  |                           |              |                       |   |      |     |
| 修業年限             | 昼夜  | 全課程の修了に必要な<br>総授業時数又は総単位数 | 講義           | 演習                    | 実習  | 実験   | 実技  |
|                  | 4   | 180                       | 2100         | 180                   | 990   | 0    | 570 |
| 生徒定員             |   | 生徒定員                      | 留学生数(生徒定員の内) | 専任教員数                 | 兼任教員数   | 総教員数 |     |
| 160名             |   | 146名                      | 0名           | 6名                    | 13名   | 19名  |     |
| 学期制度             | ■前期:4月1日～9月30日<br>■後期:10月1日～3月31日   |                           |              | 成績評価                  | ■成績表: 有<br>■成績評価の基準・方法<br>各科目について中間試験(50点満点)と期末試験(50点満点)の合計(100点満点)でAからFの6段階評価を行う。  |      |     |
| 長期休み             | ■学年始:4月1日～4月7日<br>■夏季:8月5～8月28日<br>■冬季:12月21日～1月9日<br>■学年末:3月12日～3月31日  |                           |              | 卒業・進級条件               | 【卒業】本校所定の課程を修了し、卒業判定会議に合格した者に卒業を認める。ただし、柔道整復師科、鍼灸師科に関しては、実技認定試験(認定実技審査)の合格も要件とする。【進級】試験の成績、平素の学習状況、出席状況等を総合評価し、該当科目の修了の認定を学校長が行う。 |      |     |
| 学校支援等            | ■クラス担任制: 有<br>■個別相談・指導等の対応<br>最初の個別相談・指導は担任が行う。チームとして関わることが原則で学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。   |                           |              | 課外活動                  | ■課外活動の種類<br>江戸川区行事へのボランティア参加<br><br>■サークル活動: 無<br>■国家資格・検定/その他・民間検定等<br>(令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)                               |      |     |
| 就職等の状況※2         | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生)  |                           |              | 主な学修成果<br>(資格・検定等)※3  | 資格・検定名  |      |     |
|                  | ■就職指導内容<br>個人面談・企業説明会・受験前の個人指導<br>■卒業生数 : 21 人<br>■就職希望者数 : 21 人<br>■就職者数 : 21 人<br>■就職率 : 100 %<br>■卒業生に占める就職者の割合 : 100 %<br>■その他 : 100 %<br><br>(令和2年度卒業生に関する<br>令和3年5月1日 時点の情報)  |                           |              |                       | 種 受験者数 合格者数<br>理学療法士 ② 20人 19人<br>初級障がい者スポーツ指導員 ③ 3人 3人<br>JESSE認定カウンセラー ③ 40人 38人  |      |     |
| 中途退学の現状          | ■中途退学者 11名<br>令和2年4月1日時点において、在学者139名(令和2年4月1日入学者を含む)<br>令和3年3月31日時点において、在学者128名(令和3年3月31日卒業生を含む)<br>■中途退学の主な理由<br>基礎学力不足による目的意識の喪失(進路変更)や経済的理由による<br>■中退防止・中退者支援のための取組<br>学科、学年ごとにモチベーションを維持するようプログラム(導入教育・スポーツ大会)を実施している。また学園としてカウンセリング専門部署を設け、学生の心のケアもしている。進路変更を希望する学生に対し、学園グループ内で他校との連携を取り、費用面などについて優遇制度がある。 |                           |              | ■中退率 7.9%             |   |      |     |
| 経済的支援制度          | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有<br>※有の場合、制度内容を記入<br>入学時に特待生試験を実施し、上位者に授業料を減免している<br>■専門実践教育訓練給付:給付対象外<br>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載   |                           |              |                       |   |      |     |
| 第三者による学校評価       | ■民間の評価機関等から第三者評価:有<br>※有の場合、例えば以下について任意記載<br>(評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)<br>特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構 平成30年3月<br>http://www.hyokau.jp/n-hkekkaffiles/h30-05-tokyomedicalsports.pdf  |                           |              |                       |   |      |     |
| 当該学科のホームページURL   | <a href="http://www.tokyo-mediac.ac.jp/">http://www.tokyo-mediac.ac.jp/</a>   |                           |              |                       |   |      |     |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者(いい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者)を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進修、主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもと設置され(添付教育課程編成委員会規定参照)、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっている。また学校運営においては教務組織規定において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

| 名前    | 所属                             | 任期                 | 種別 |
|-------|--------------------------------|--------------------|----|
| 古島 昭博 | 滋慶学園 常務理事                      | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 関口 正雄 | 東京メディカル・スポーツ専門学校 学校長           | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 松川 勝吉 | 東京メディカル・スポーツ専門学校 事務局長          | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 館脇 康郎 | 東京メディカル・スポーツ専門学校 教務部長          | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 形本 祐子 | 東京メディカル・スポーツ専門学校 事務部長          | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 谷口 豪  | 東京メディカル・スポーツ専門学校 理学療法士科 I 部学科長 | 2020.4.1～2022.3.31 |    |
| 高井 豊  | 医療法人社団 森山医会                    | 2021.4.1～2023.3.31 | ③  |
| 安田 和弘 | 早稲田大学                          | 2020.4.1～2022.3.31 | ②  |
| 山口 智史 | 順天堂大学                          | 2020.4.1～2022.3.31 | ①  |
| 遠藤 敦  | 公益社団法人東京都理学療法士協会               | 2021.4.1～2023.3.31 | ③  |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催(6月・10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年7月13日 13:00～15:00

第2回 令和2年12月14日 15:00～16:30

(令和3年度) 6月21日 10:00～12:00

11月22日(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

●次年度の計画については、デジタル化・ICT 化の推進が大きな目標として挙げられていました。しかし、具体的な最終目標が不明瞭でした。細かい目標設定はされていますが、最終的(卒業段階)でどのような能力を有した学生を輩出したいのかを決められても良いように思います。そのためにも、まず現在の学生が、どのような状況で、どのような能力が足りないのか、目標を到達するために、どのような能力が必要を向上する必要があるのかをもう少し整理されても良いと思います。⇒学科として次年度の課題として取り組みたいと思います。

●今回の様に実習に出れない場合、卒業後臨床現場に及ぼす影響を分析して今後につなげて頂ければと思います。又、遠隔授業と面識授業との学生さんの理解度も分析して頂き、今後につなげて頂きたく思います。⇒学校全体で、今年度の振り返りを重要視し、次年度以降の教育に役立てたいと考えています。

●チューター制度は、教員個々の指導が反映されやすく、また成果は教員個々の能力に依存してしまう可能性があるため、今後は教員の評価と支援体制が必要になると考える。⇒授業アンケートを学生に実施し、教員個々の授業状況などを把握しています。さらに内容を細かく分析したいと思います。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の学校コンセプトである「医療＋スポーツ」に基づき、多彩なスポーツ関連の企業と連携を図り、柔道整復師をスポーツ業界に活かすために、基本の「生命」の考え方や治療マインドを身に着けることを方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

3年生は評価実習（225時間）、4年生で総合実習（720時間）ある。それぞれ実習開始前には、実習先の指導者を招いて会議（スーパーバイザー会議）を実施している。会議は、実習概要に基づき、目的や実習の内容、評価について細かい点まで実習指導者と共有している。また実習指導者と学生との面談で事前の顔合わせをすることで、スムーズな導入と連携を深めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名    | 科目概要  | 連携企業等   |
|--------|---|---|
| 臨床評価実習 | 臨床現場において実習指導者監督の下、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの実習を行う。                            | 筑波記念病院・野田病院・(医)健佑会いちほら病院・金沢病院・森山記念病院（合計266施設） |
| 臨床総合実習 | 理学療法士としての基本的態度を習得し、理学療法の課程（情報収集、問題点の抽出、目標の設定、理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、再評価）を体験し学習する。また問題解決能力を向上する。 | 筑波記念病院・野田病院・(医)健佑会いちほら病院・金沢病院・森山記念病院（合計266施設） |
|        |   |   |
|        |   |   |

|   |
|---|
| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係  |
| (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針<br>学園の定める教職員規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法向上、マネジメント能力を含む指導力の向上と専攻分野の実務知識を含む授業力の向上を目的としています。令和元年度においては、専攻分野における実務に関する教員研修をFD(ファカルティ・デベロップメント)活動と位置づけ、年一回の研修への参加を推進しました。 |
| (2) 研修等の実績<br>① 専攻分野における実務に関する研修等<br>研修名「リハビリに活用しよう！3Dプリンタオンライン講習」(連携企業等：一般社団法人ICTリハビリテーション研究会)<br>期間：2020年11月21日(土) 対象：専任教員<br>内容：ケアやリハビリテーションへの3Dプリンタの活用方法(教育へのICTの活用方法の検討)                                   |
| 研修名「公認障がい者スポーツ指導者オンデマンド講座」(連携企業等：日本障がい者スポーツ協会)<br>期間：2021年1月15日(金)～3月31日(水) 対象：専任教員<br>内容：新カリキュラムで追加になった項目に対する研修など(障がい者スポーツに関するカリキュラム改定への対応)  |
| 研修名「第1回物理療法部門研究会」(連携企業等：日本理学療法士学会物理療法部門)<br>期間：2021年2月20日(土) 対象：専任教員<br>内容：物理療法研究の現状と未来(物理療法の最新の知見を収集し授業へ反映する)  |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等<br>研修名「2020年度教員研修会(WEB開催：オンデマンド)」(連携企業等：全国リハビリテーション学校協会)<br>期間：2020年2月15日(月)～3月15日(月) 対象：専任教員<br>内容：リモート授業における効果的なグループワークの構築について(リモート授業における授業構築方法の検討)  |
| 研修名「2020年度日本理学療法士教員協議会」(連携企業等：一般社団法人 全国大学理学療法教育学会)<br>期間：2020年3月13日(月) 対象：専任教員<br>内容：COVID-19禍における理学療法教育の現状と中長期的課題について(COVID19禍における授業構築方法の検討)   |
| 研修名「2020年度 第27回マネジメント研修(オンライン)」(連携企業等：滋慶教育科学研究所)<br>期間：2020年10月20日(火) 対象：専任教員<br>内容：研修内容等Withコロナ・Afterコロナ時代におけるマネジメント(カリキュラム開発、指導方法への反映)  |
| (3) 研修等の計画<br>① 専攻分野における実務に関する研修等<br>研修名「第55回日本理学療法学会研修大会」(連携企業等：公益社団法人日本理学療法士協会)<br>期間：2021年5月29日(土)～30日(日) 対象：専任教員<br>内容：“100年ライフに必要な「はたらく」を構築する～目標達成に向けた臨床理学療法の確立～(理学療法にかかわる最近の知見を収集し授業へ反映する)                |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等<br>研修名「JESC教育分科会医療教育部会理学療法チーム研修・会議」(連携企業等：JESC教育分科会医療教育部会理学療法チーム)<br>期間：2021年4月27日(火) 対象：専任教員<br>内容：広報・教育・就職に関わる全般(国家試験対策結果・各校の取り組み・今後の対策について)   |
| 研修名「2021年度国家試験対策研修会」(連携企業等：滋慶学園グループ国家試験対策センター(JESC))<br>期間：2021年7月7日(水) 対象：専任教員<br>内容：分析数字数字に基づいた国家試験合格率向上の為の工夫や教育方法を学ぶ。(国家試験対策方法を研修で学び、自校での工夫材料とし教育に役立てる。)   |
| 研修名「第34回教育研究大会・職員研修会」(連携企業等：一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)<br>期間：2021年10月23日(土)～24日(日) 対象：専任教員<br>内容：リハビリテーション専門職教育の再考(カリキュラムの見直し、教授方法の検討)  |
| 研修名「第10回 日本理学療法教育学会学術大会」(連携企業等：日本理学療法教育学会)<br>期間：2021年12月4日(土)～5日(日) 対象：専任教員<br>内容：理学療法教育の進化～未来のカタチを求めて～理学療法教育に関する最新の知見を収集し、教授方法に反映する。)   |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目    | 学校が設定する評価項目                              |
|----------------|--|
| (1) 教育理念・目標    | 教育理念・目標・育人人材像                            |
| (2) 学校運営       | 運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム          |
| (3) 教育活動       | 目標設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許取得の指導体制他   |
| (4) 学修成果       | 就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価                  |
| (5) 学生支援       | 就職等進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連携・卒業生・社会人 |
| (6) 教育環境       | 施設・設備等・学外実習・インターシップ等・防災・安全管理             |
| (7) 学生の受入れ募集   | 学生募集活動・入学選考・学納金                          |
| (8) 財務         | 財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開                  |
| (9) 法令等の遵守     | 関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開        |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 社会貢献・地域貢献・ボランティア活動                       |
| (11) 国際交流      |  |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○オンライン授業だと実技授業など、直接患者に触れる機会が減って技術の面で不安がのこるのではないかと。⇒昨年度も実施していましたが、ハイブリット型の授業を運営しております。感染対策をしながら、実技授業を行っています。また昨年度、外部実習ができなかった卒業生については、各科で「新卒者フォローアップ研修」を開催し臨床現における基礎知識について研修を行います。

○登校できない時の学生サポート(学習面・精神面)を実施してほしい。⇒今年度は、Micro soft のTeamsを導入し、よりオンライン上のやり取りをスムーズにできるようにした。精神面についても情報を密にし、気になる学生については学科内で情報を共有している。また保護者の方にも協力を仰ぐようにしている。

○既に活動している組織とSDGsとの関連付けはされているのでしょうか。⇒今年度の運営方針でDXで「教育力のTMS」を創りあげることが掲げ、目標の指標を国家試験の新入生合格者を80%にすることとしました。それには、EdTechを推進することとし、学びを止めず、学習効果を最大限にするために、教育手段のICT/デジタル化だけでなく、学習管理やAIを活用した個別最適化への対応を推進することとしています。学校もそうですが、学園全体でも取り組んでいる活動になります。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年5月1日現在

| 名前     | 所属             | 任期                   | 種別   |
|--------|----------------|----------------------|------|
| 牛込 公一  | 有限会社ディー・シー・ティー | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 卒業生  |
| 山本 洋美  |                | 2020年4月1日～2022年3月31日 | 保護者  |
| 森 章    | 拓大紅陵高等学校       | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 高等学校 |
| 沼倉 英里  | 行船管理有限会社       | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 地域   |
| 藤野 浩一郎 | 一般社団法人TMG本部    | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 業界関係 |
| 高井 豊   | 社会医療法人社団森山医会   | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 業界関係 |
| 宇梶 義男  | ムーヴアクション株式会社   | 2022年4月1日～2024年3月31日 | 業界関係 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://www.tokyo-medical.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月25日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目          | 学校が設定する項目   |
|--------------------|---|
| (1) 学校の概要、目標及び計画   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本情報</li> <li>・開校の目的</li> <li>・建学の理念</li> <li>・学校の沿革</li> <li>・学校長略歴・ご挨拶</li> <li>・各科の養成目的</li> </ul>       |
| (2) 各学科等の教育        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科の別、修業年限、入学定員</li> <li>・教育目標・教育システム</li> <li>・教育スケジュール</li> <li>・取得目標資格</li> <li>・卒業後の進路(主な就職先)</li> </ul> |
| (3) 教職員            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表教員の紹介</li> </ul>  |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取り組み</li> <li>・就職支援の取り組み</li> </ul>   |
| (5) 様々な教育活動・教育環境   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動</li> <li>・学校設備状況</li> </ul>  |
| (6) 学生の生活支援        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主なサポートシステム</li> <li>・医療、健康サポート</li> <li>・住環境サポート</li> <li>・就職サポート</li> </ul>                                |
| (7) 学生納付金・修学支援     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金情報</li> <li>・学費サポートシステム</li> </ul>   |
| (8) 学校の財務          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査報告、貸借対照表、収支計算書、財産目録</li> </ul>  |
| (9) 学校評価           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検、自己評価</li> <li>・学校関係者評価の議事録</li> </ul>  |
| (10) 国際連携の状況       |   |
| (11) その他           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時避難の対応</li> </ul>   |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

<http://www.tokyo-medical.ac.jp>

授業科目等の概要

| (医療専門課程理学療法士科Ⅱ部) |      |      |            |   |         |      |     |      |    |          |    |    |    |    |         |
|------------------|------|------|------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修               | 分類   |      | 授業科目名      | 授業科目概要  | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 |    |          | 場所 |    | 教員 |    | 企業等との連携 |
|                  | 選択必修 | 自由選択 |            |   |         |      |     | 講義   | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 |         |
|                  |      |      | ITリテラシー    | 情報の選択、収集、活用について学ぶ。  | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 理学療法基礎科学   | 理学療法士として必要な力学、生物学などの基礎的な科学を学ぶ。                                    | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | いのちの倫理     | 理学療法士として必要な医学倫理について理解する。  | 1       | 15   | 1   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 心理学        | 心理学・カウンセリングの技法について理解する。   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 文章リテラシー    | 理学療法士として必要な論理的文章作成を学ぶ。  | 1       | 15   | 1   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 保健体育       | 応急処置技術(テーピング)を学ぶ。(前期または後期に履修)健康の保持 増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。 | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 医学英語       | 医療に関する簡単な英文・文法・発音等を学ぶ。  | 2       | 15   | 1   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 障がい者スポーツ論  | 初級障がい者スポーツ指導者の資格を取得する   | 2       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | コミュニケーション論 | 人間関係に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ   | 1       | 15   | 1   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 解剖学Ⅰ       | 理学療法士としての必要不可欠な人体の成り立ちや形態、構造について学ぶ。                               | 1       | 90   | 6   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 解剖学Ⅱ       | 理学療法士としての必要不可欠な人体の成り立ちや形態、構造について学ぶ。                               | 2       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 運動機能論Ⅰ     | 関節の構造や仕組みより深く理解し、人間の運動機能について学ぶ。                                   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 運動機能論Ⅱ     | 関節の構造や仕組みより深く理解し、人間の運動機能について学ぶ。                                   | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 生理学        | 医療従事者として、理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。                           | 1       | 60   | 4   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 運動学        | 人間の運動を分析する基礎的な学問、筋、骨格系の運動様式を理解し、運動障害の評価に活かす。                      | 1       | 120  | 8   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 人間発達学      | 身体・運動の発達を、胎児から成長過程を質的变化の課程を学ぶ。                                    | 1       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 基礎医学総合演習   | 解剖学・生理学・運動学を始めとする基礎医学の復習を通じて臨床現場に向けて知識の基礎力を向上する。                  | 4       | 90   | 6   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 病理学        | 疾患の原因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎知識を学ぶ。                           | 2       | 30   | 2   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |
|                  |      |      | 神経内科学      | 理学療法士に求められる神経内科学に関する知識について学ぶ。                                     | 2       | 60   | 4   | ○    |    |          | ○  |    | ○  |    |         |

|   |  |                |   |   |    |   |   |   |   |  |   |
|---|--|----------------|---|---|----|---|---|---|---|--|---|
| 1 |  | 臨床心理学          | 心理学、精神医学などの知見や理論を用いて、こころの問題を抱えた人の理解と援助の方法を学ぶ。           | 2 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 精神医学           | 理学療法士に求められる精神医学に関する知識について学ぶ。                            | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 内科学            | 理学療法士に求められる基本的な内科学に関する知識について学ぶ。                         | 2 | 60 | 4 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 整形外科学          | 理学療法士に求められる整形外科学に関する知識について学ぶ。                           | 2 | 60 | 4 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 小児科学           | 小児についての一般的考え方、見方、病気の概要について学ぶ。                           | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 老年学            | 超高齢化社会をむかえようとしている現代社会の現状を認識し、問題点を解決する為の基礎を学ぶ。           | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 救急救命(BLS)      | 救急医療体制を学び、多様化する患者に対し、急変・突発的事故にどのような措置を取るべきかを説明できるようになる。 | 1 | 15 | 1 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 画像診断学          | 医療現場で様々な疾患に対する医用画像診断の理論を理解することを目的とする。                   | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | リハビリテーション医学    | リハビリテーションの対象である疾病・障害について正しく理解する。栄養・薬理・予防の基礎をあわせて学ぶ。     | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 臨床医学総合演習       | 神経内科・整形外科等の疾患系に対する知識の復習を行い、臨床現場に向けての知識を学ぶ。              | 4 | 60 | 4 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | リハビリテーション概論    | リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学と基礎医学、リハビリテーションの評価と診断について学ぶ。 | 1 | 15 | 1 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 保健医療福祉論        | 保健・医療・福祉の立場から多職種連携、障がい者の自立支援や就労支援、地域包括支援システムについて学ぶ。     | 3 | 15 | 1 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | スポーツリハビリテーション論 | スポーツ外傷・障害の発生機序から病態・病因・治療・リハビリテーションまでの流れを理解し、対処方法を学ぶ。    | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法概論         | 理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を検討する。      | 1 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 病態運動学          | 基礎的運動学知識をさらに発展・統合し、臨床における諸現象をより実践的に理解し、理学療法の理論的根拠を学習する。 | 2 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法基礎セミナー     | 理学療法の専門領域を学ぶための基礎的な考えの形成と醸成をはかる。                        | 1 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法セミナー       | 基礎知識・技術と臨床現場で求められる能力を統合する。接遇や対応対処法など考えて行動できる力を身につける。    | 2 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法総合セミナー     | 現場で必要となる客観的臨床能力スキルを自ら考える能力を育み、知識・技能・態度面の向上に結びつける。       | 3 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法管理学        | 臨床現場における職場管理と職業倫理や組織運営とマネジメントを包括的に学ぶ。専門職として理学療法教育を理解する。 | 4 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法評価概論       | 理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を検討する。      | 1 | 30 | 2 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法検査・測定法     | 形態測定、運動機能測定、検査法の理論を学ぶ。                                  | 2 | 60 | 4 | ○ |   | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法検査・測定法実習   | 形態測定、運動機能測定、検査法の実践。                                     | 3 | 60 | 2 |   | ○ | ○ |  | ○ |
| 1 |  | 理学療法評価学総合演習    | これまで学んできた基礎医学や臨床医学・理学療法知識・技術から対象者評価を総合的に理解する。           | 4 | 60 | 4 | ○ |   | ○ |  | ○ |



|    |  |               |   |      |     |                  |   |  |  |   |   |   |   |   |
|----|--|---------------|---|------|-----|------------------|---|--|--|---|---|---|---|---|
| 1  |  | 運動療法学Ⅰ        | 運動療法の基礎理論を学ぶ。   | 2    | 60  | 4                | ○ |  |  | ○ |   | ○ |   |   |
| 1  |  | 運動療法学Ⅱ        | 運動療法の基礎理論を学ぶ。   | 3    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 運動療法学実習       | 運動療法の基礎理論を理解した上で、基本的動作訓練の技術を習得する。   | 3    | 60  | 2                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 疾患別理学療法学Ⅰ     | 各疾患別に起因する運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識から、それを基にした機能障害の回復促進・残存障害及び障害予防に対する理学療法を学習する。                               | 2    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 疾患別理学療法学Ⅱ     | 各疾患別に起因する運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識および、機能障害の回復促進・残存障害及び障害予防に対する理学療法を学習する。(喀痰吸引含む)                             | 3    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 疾患別理学療法学実習Ⅰ   | 疾患に対する理学療法を、その疾患特有の評価から治療テクニックまで実践を通し学ぶ。  | 2    | 30  | 1                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 疾患別理学療法学実習Ⅱ   | 疾患に対する理学療法を、その疾患特有の評価から治療テクニックまで実践を通し理解する。  | 3    | 60  | 2                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 物理療法学         | 物理療法の歴史を学び、物理療法を実施するために必要な生理学、病理学等の基本を理解する。温熱・水治・牽引・マッサージの各療法の原理と目的、適応と禁忌、リスク管理を学習する。                       | 2    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 物理療法学実習       | 物理療法機器に関する基本的操作方法を理解した上で実習する。   | 2    | 30  | 1                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 義肢装具学         | 義肢装具の基本的構造と機能について学び、適合方法について学ぶ。   | 2    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 義肢装具学実習       | 義手・義足の基本的構造と機能について実習を通して学ぶ。   | 3    | 30  | 1                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 日常生活動作学       | 基本的な日常生活活動(動作)を分析し、障害に伴う能力障害に適応し、その問題解決のための基本的技術を習得する。  | 3    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 日常生活動作学実習     | 人間の日常生活活動(動作)を理解し、障害に伴う能力障害への諸問題を分析し、問題解決の基本的知識・技術を学習する。  | 3    | 30  | 1                |   |  |  | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 1  |  | 理学療法治療学総合演習   | これまで学んできた基礎医学や臨床医学・理学療法知識・技術から治療的アプローチを総合的に理解する。  | 4    | 60  | 4                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 地域理学療法学       | 地域でのリハビリテーションにおける実際と地域包括ケアシステムを理解し、地域における生活支援に対する理学療法を学ぶ。   | 3    | 15  | 1                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 生活環境論         | 障害者、高齢者が自立した生活をするための生活環境整備・改善の支援について、リハビリテーションの視点から学習する。  | 3    | 30  | 2                | ○ |  |  | ○ |   |   |   | ○ |
| 1  |  | 臨床評価実習        | これまで学んだ基礎・臨床医学から専門知識技術までを総合的に理解する為、国家試験形式で解答力と専門力を身につける。  | 3    | 225 | 5                |   |  |  | ○ |   |   | ○ | ○ |
| 1  |  | 臨床総合実習        | これまで学んだ基礎・臨床医学から専門知識技術までを総合学習し、国家試験合格力を身につける。   | 4    | 720 | 16               |   |  |  | ○ |   |   | ○ | ○ |
| 1  |  | 地域リハビリテーション実習 | 臨床現場における基本的理学療法技術を持って、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション機能を持つ施設で多様化する社会的ニーズを体験的に理解する。尚、臨床実習前及び臨床実習後の評価実習前後教育を含めた単位とする。 | 4    | 45  | 1                |   |  |  | ○ |   |   | ○ | ○ |
| 合計 |  |               |   | 60科目 |     | 3180単位時間( 158単位) |   |  |  |   |   |   |   |   |

| 卒業要件及び履修方法   |           | 授業期間等 |  |
|--|-----------|-------|--|
| 卒業時まで全科目を履修し、学年ごとに必要単位を取得し、卒業判定会議に合格し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。 | 1 学年の学期区分 | 2期    |  |
|  | 1 学期の授業期間 | 30週   |  |

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。